

### 第3回 加西市地域創生戦略会議 会議録

日 時	平成27年11月16日(月) 19時00分～21時00分
場 所	加西市役所1階多目的ホール
出席者 職・氏名	委員 永田 岳巳(副会長)、玉田 啓子、中安 高、千石 唯司、池田 義人、 久米澤 稔、吉田 朱里、立花 莉絵子、西脇 亜李沙、小松原 綾子、 吉岡 猛逸、半井 孝明、柳原 正英、田端 和彦(会長) (14名) 事務局 一番孝明理事、西岡義信ふるさと創造部長、千石剛人口増政策課長、 小菊啓靖課長補佐、岡田展彦主事、小山映まちづくり専門員ほか1名
議 題	(1) 進捗状況の報告 (2) 戦略の実現に向けた取組み (3) アクションプランについて (4) 今後の進め方について
配 布 資 料	資料 1 プレスリリース(加西市地域創生戦略の策定について) 資料 2 加西市地域創生戦略の実現に向けた主な取組み 資料 3 アクションプラン一覧表 資料 4 今後の進め方について

#### 1 結果概要

加西市の地域創生戦略の策定の進捗状況や戦略の実現に向けた取組み等について、資料に基づき事務局より説明した後、各委員により、アクションプランについて、意見交換を行った。

#### 2 会議内容

##### (1) 事務局説明

加西市の地域創生戦略の策定、主な取組み、アクションプラン及び今後の進め方について、資料に基づき事務局より説明。

##### (2) 意見交換

○会長

一遍に全てのものを出していただいたのですが、考え方を少しきちっと示した後に、その後具体的な施策、そして具体的な施策を進めていくにはどうしていくのか、さらに言えばその検証というところまで一連の流れをご説明させていただいたこととなります。ちょっと短い時間でのご説明でもございましたので、ご不明な点も多いかと思えます。

最初の積み上げの部分も含めてで結構でございますので、何かご質問、ご意見等ありましたら、それぞれ皆さんのご意見を聞きながら進めていきたいというふうに思っています。特にアクションプランにつきましては、先ほどご説明がありましたように、ここからはある意味行政の中で決めていかないといけないことになってまいります。そうすると、こういう思いでこのアクションプランを考えているのに、ちゃんと行政の中にまで、届いているのかなというような市民のご意見なんかもあるかと思えます。

市民の関心が低いっていうのは、やはり行政内部でやっていることであって、市民には関係ないと思われているのではないかと。だからこそ、いじれるのはここですからね。アクションプランの中でこうして欲しいのだからっていうのは、ちゃんと今日の時点で明らかにさせていただいていかなければ

ばいけないだろうというふうに思っています。

それから最後にありましたように、評価をしていくのも実はこれは総計の事業の中に組み込んでいくということですから、本来これ優先しなきゃいけないというのがあるのだというのであれば、あるいはこのアクションプランもっと優先して欲しいんだというのがあれば、総計の事業に組み込むにしても、優先的に評価の中に組み込んで欲しいというようなところも、評価や推進の中に組み込んで欲しいというのがあると思います。そういうようなものも含めて、ご意見を賜りたいというふうに思います。いかがでしょうか。どこからでも結構でございます。

ちょっと最初の資料の2の資料を見ていただきますと、これが流れというか考え方なのですね、書いてあるのがね。加西市の場合は、未婚率が高くて合計特殊出生率が低いということですから、ここをまずなんとかしなきゃいけないというのがあると。つまり逆に言うと、今低いということは簡単に上げられるってことなのですね。高いところをもっと上げるっていうのは大変なのですが、低いところを上げるっていうのは実は、高いところを上げるよりは少し簡単などころがあるのじゃないかということで、その方法として挙げたのがここになります。

そして、社会増を拡充ということなのですが、こういう出生率の向上政策、例えば子育ての負担軽減などを図れば、当然若い方の移住というのもある。ただ、若い方が移住してくるためには働く場所、生活する場所が要る。だから、社会増の対策が生きてくるわけですね。ただ、移住してきて、子育て終わりました、育った子供が「はい、さようなら」では持続的な発展が難しい。ですから、そのためにはこのまちに定住していただくための、ここへ書いているシビックプライドって書いていますけども、まちに定住していただくための手段が要る。だから、流れとしてはこういう考え方に基づいているというわけです。基本的にこの考え方は、恐らくどの市でも同じような対応を考えているだろうというふうには思います。

最初の方に人口の積み上げの数字がございましたけども、人口が増え始めると加速がついていきます。なぜかっていうと、人口が増え始めますよね、そうするとそれに対するサービスが必要になってまいります。今、対人サービスが非常に大きな産業の核ですから、サービスが必要になってくると。そうすると、そのサービスの雇用が生まれると。その雇用が生まれるとまた人が入ってきますが、またサービスが必要になってくるという形で、実は増え始めるとそれが持続的にいく可能性はあります。絶対いくとは述べません。第一、外へ流出って必ずありますから、絶対いくとは言いませんけども、可能性としてはあります。ですから、そういう意味では人口増を考えていくというのが、まちの発展にも寄与していくであろうということだろうと思います。

すみません、私が長々と解説してはいけないので、どうぞ、お願いします。

## ○委員

よく調べていろんな苦労されたというのはよくわかるのですが、これは小野市も加東市も似たようなことで、何の特色もないと。いろんな寄せ集めの対策で、これだったらよそもいろんなお金、出そうとか、すぐ真似されるから。だからここに集まってくるのはちょっと不可能だと思う。ちょっとだけ先行したときは、いいかもしれないが、どこのまちも減ってきているのだから同じようなことはやるだろう。

そしたら、加西市は何でいくのかと僕はよく言うのだけど、その道具と方法を何か考えとかないと加西市らしさ、それを何か、それには僕は思うのだけどね、恐らく市の人らも企業へ来ていただいて、加西へ住んでないので通っている人がいる。その人に直に聞いてどういう訳かと、いろんなこと聞いてみたら、何で加西市内に住まないのかということがもっと浮き彫りに出てくるのではないかと思う。だから、昼休みかなんかに来てもらったら、当然商工会議所も協力する。そりゃ言う

たら、半分以上がよそから通つとるとというのが現状やから、これは大きな資産となる。できれば働いているところへ住んだほうがより便利なわけだけど。それには、長男なので他の市に住むわけにいかん、おばあちゃんがおるとかいろんなことがあると思うのだけどね。

加西市がこの北播で一番いいのは、製造業が非常に発達しているところ。これはもう超一番だ。年商50億以上の会社が20社ぐらいあって、ほかはもう10億以上とか。そんな大きな工場のあるようなところはない。だから結構働くところは今やとどできるよになっている。大手家電製造会社さんが昔いなくなっちゃってどんどん衰退したけども、結構皆さん頑張りはって、だから今、言うたら20年前だったらね、危ないし汚いし小学校の方に来てくれと言われんような会社だった。それは頑張ってきたから、まあまあ真夏に来てくれと、加西市こんな会社あるのだと言って、これも4年間やったけども、みんなそれだけ成長してくれた。そういう素材がある。

それに対して何をやるかというのは、だから加西市らしさ、僕もきょう夏祭りの会があったけれども、小野は大きい規模だし、花火は上げとるし、それは真似していけない。だから、加西市らしさを出したらどうだと。そしたら、根日女やいろんなことが出ていました。そういうようなものを加西市らしさというものを何か入れていかないと。それが強みになる、よそで真似できないことだと。これはもう書いてあることいっぱい勉強で言われたと思うけどやね、これは似たようなことで、どこもできること。

それで、今減ったやつを急に、よそも減っている北播で減ったやつをここへ持ってきたって、それはちょっと難しいのではないか。よその市ももう手を打っていと思う。当然、全体的に兵庫県も人口が100万人、90万人減るとい試算が出ている。そういうことは減っちゃっているのだから。その中で、ここだけいい目しよう思っても、なかなかこのメニューでは食ってもらえないというような、僕は感触を受けました。

#### ○会長

ありがとうございます。多分、最初に私が資料2を使ってお話をしましたけども、恐らく委員の意見はこの流れっていうのはある種循環になって、どこから手始めるか、要するに社会増が先か自然増が先かっていう、どっちが先に始めるかっていう議論っていうのはいつも鶏が先か卵が先かなんですね。

だから、委員のご意見というのは、まず定住策をしっかりやれと。それには多分住宅の問題、ずっとおっしゃったことで住宅の問題ですとか、いうことがあったと思うのですが、今回例えばアクションプランを見ていただいても、人口プロジェクト増でされるのは定住増よりもむしろ子供をどう、子育て支援の中で中心となっていると。そこをちょっと考え直したらどうかという、こういうご意見かなと私は聞いていたのです。おっしゃっていただいたように、実際の従業員の方に聞いていただいて、定住に何が必要なかっていうものを聞いていただくっていうのはまさに定住策の促進ということなので、そのあたり少し人口プロジェクトチームの施策で優先順位を少し考えてみたらどうかというのが、検討する課題ではないかというふうには思うのですね。

#### ○委員

だから、そういうのもやるとやっぱ本気になってやっているというのがいわゆる、パブリックコメントが一人しか来ないやつが、皆考えてそこまでヒアリング行ったやないかという、皆さんのやとどる力が表に出てくるのではないかと思う。ここだけの会議になっちゃって。

#### ○会長

ありがとうございます。また企業に対して、こういういわゆる補助を出すというのは企業には確かに魅力なのでしょうけども、従業員がそれで本当に魅力感じてくれるかどうかというのはいわゆるわからないのだから、そこら辺は少し検討の余地があるのではないかとこのように思いますけども、どうでしょうか。今の委員のご質問とかご意見に対して何か対応がございませうでしょうか。恐らく進め方にも関わることなので、おっしゃっているところなんですけど、いかがでしょうか。

#### ○事務局

一応、いろんなところからのニーズを把握していく中ででは、そもそも加西市の場合はなかなか賃貸も含めて住宅事情がやっぱりよくなかったというところが、まず第一義的に承ってきたところなんです。それで、今回のアクションプランにおいても、住宅供給能力という部分はもう絶対的に向上させないことには、そもそも先程委員も言われたように、いろんな企業の動きから人の転入という流れは少なからずあるのですね。ところが、あるのだけれどもそれが物件不足から転入してもらうことすらできていないというような状況が過去数年来ありました。という中で、今までにおいてもその辺の強化策は施してきたのですが、まだ今後においてもまだそれが必要であるという事情はそんなに変わっていないところがございますので、アクションプランではこういうところをお示ししているところです。

ただ、今もおっしゃられていたように、じゃ何をもって定住地を定めるのだというふうなところが当然に問題になってくるわけで、何をもって定住をするのかというふうなところのニーズは、これは非常に一人一人において多様な部分がありますので、総花的にそれをフォローするっていうのは財政的にも非常に苦しい事情にさいなまされるようなところが想定されるわけでございまして、やはり多く聞くのは教育の部分が子育てをされていく保護者世代、あるいは今後お子さんをお産みになる新婚世代においては、教育的な視点っていうのは非常に強いというふうなところはよく耳にするところでございます。ですから、そこは教育委員会の所管部分と、あと他方、委員よくご存じの高校の支援というものを地域挙げてやっていこうというふうな取り組みを加西市においても行っているところがございます。ただ、これで十分かというところは当然まだ検証の余地があるのですが、そこら定住地に選んでもらえる要因というものは今後もっと研究をする必要はあろうとは思っておりますので、そこらにおいてはまたアドバイスなり情報提供なりをいただければ非常にありがたいと思います。

ただ、今日も一つ項目としてはお示しをしたのですが、市内事業所の市内在住率が加西市の場合は40数%というところがございますので、その部分は何らかの手を打って市内在住率を上げていくということは、せつかく働く場は市内には一定確保できている世界が築けておりますので、その従業員の皆さんがそんなに遠くない通勤距離をもって勤務地へ行っていただくと。つまりは、加西市にできるだけ住んでいただけるような側面的支援は別途考えなければならぬということで、きょうも2-34番というところでの勤労者の定住促進という項目を設けておるところでございます。これは、2年来いろいろと検討はしているのですが、なかなかスキーム自体の構築に非常にこずっております、ここらはまた委員であったり、会議所などいろいろな連絡調整をさせていただく中で制度を設計していきたいと思っておりますので、非常にこのあたりが今後のみそになっていくようなところかなと考えております。

#### ○委員

質問があるんですけどね。この前も市長さんと副市長さんと、陳情に行って、住民票が移っていない人が多い、この加西市は。リチウムイオン電池工場かなんか独身で来てる人はたくさんおる。

住民票を移せんかった加西市は損なのか。

○会長

住民票を移さないと税金上の問題とかあります。所得税が入ってきませんので。

○事務局

住民税という意味合いからだけで言いますと、その分の税収がないというふうな言いぶりではできるかと思います。ところが、実際に加西市にお住みになられて勤務されているわけですので、そこで通常の経済行為はされるわけですので。

○委員

買い物をしたり、家賃払ったりする。

○事務局

そういうことです。ですから必ずしも、損という言いぶりが適切かどうかはまた別の議論だと思います。

○委員

だから、副市長が住民票を移せと言うて、そこまでは、結構その辺をもう一回調べてもらったら、居るのではないかと思う。リチウムイオン電池工場がめちゃ増えてきている。

それともう1点、今いわゆる固定資産税、アパートだったら補助している。それで結構アパートが増えてきた。それまでは何か言ったら、加西は高く、加東のほうが安いと。社長、同じような部屋だったら住む人も年間10万違いますと、という人らがちょっと下がってきたと言っている。というのは、今補助が効いてきて、うわさで聞くと金持ちの人は相続税対策で加西にいわゆるワンルームマンションをつくと、そんなら1億円かかったら、減価償却でドーンと下がる。それで家賃も入ってくるわけやから。それで、結構今どんどん新しいのができてきている。古い物件がやっぱり入ってくれないから、安くなるというような、それは補助金が出てきて結構増えてきたという、その辺のこと聞きます。

それで、言うたら困ったという人もおると。昔の古い20年前のアパートは入ってくれなくなると。そやけど、ちょっと悪くても安かったらという人、そういう人らは、そこへまた入ってきていると。社長に言われたように、変わってきましたと。そういう流れも出てくる。だから、そのことはちょっと効いてきているね。そんなことも聞きます。

○会長

ありがとうございます。今までの手が、人口増加策が画された場合は、これまでもされてきたということで、その成果が少し見えてきているのじゃないかと。当然、住宅供給が過剰になればその分家賃が下がりますから。ただ、子育てに向いている住宅っていうのは、今市の政策で書かれている例えば、住宅地の造成などというのはもう少し庭つき1戸建てのところを考えたおられるようなので、そこら辺の需要がどの程度あるのかを、先ほど委員からもおっしゃったように実際調べてみる価値はあると思います。つまり定住っていうのは、家から定住ですからね。アパートにいる限りは、おっしゃったように住民票を移さないまま、また次転勤あるかもしれないっていうのはあるかもしれません。

#### ○委員

それと、田舎の住めない家がいっぱい増えてきている。それを何かうまく活用されて住んでもらって、前の話ではないけども、来た人は溝普請やとか草刈りしなくても済むとかいうような、まあ公民館の掃除は行ってもらわないといけない。もう本当何か、僕らのところでもあと5年10年したら、あの家なくなると。ここは田舎やからね。そんな家いっぱいある。その辺の対策も何かしたら、その過疎化しているところも助かるし、住んでもらえば家も土地もあるんだけど、そのミスマッチで。

#### ○会長

そうですね、既存の空き家対策は、今はここでは子育て支援の場と言ってますけど、それ以外にも実際に住んでいただけるように、これは要するに中古不動産住宅市場っていうのは、なかなか日本国内では売買が十分ではありませんし、そのあたりこれはなかなか市ではできない。不動産業に関わることでありますけども、そういったものを活性化するために情報提供とか、そういったものはやっぱりしていかなきゃいけないだろうと思います。

おっしゃっていただいたように、田舎で地域の結びつきが強いから「あそこの家はなくなるのじゃないの」っていうのは、地元の人には知っておられますけども、不動産屋さんには知らないというケースがあります。でもそういう情報ミスマッチを何らかの形でなくしていく。これは実は本来、商工会議所でやっていただきたいところの事業ではあるので、なかなか委員にも、なかなか難しいところがあるので、ちょっとまた考えていただかないところはあります。ありがとうございます。

他いかがでしょうか、何かご意見ありませんでしょうか。どうぞ。

#### ○委員

少し聞いておきたいのは、市としてどうなっていくのかが、いろいろ事業はあると思うのですが、僕としていろんなところと話していたら、鹿児島かな、住宅があって、病院とか、学校とか、そういう今やったら北条のアスティアとか、大規模小売店とか、ショッピングセンターとかのところに学校を誘致したり、そういう何かバスですつと行ける。歩いても行ける。病院がそこにあるとか、今やったら病院は山の上にあるやないですか。それがもう30年後には、北条地区の真ん中に病院を移設するとか、そういう方向性はあるのか。僕は上万願寺でもう田舎なのでもういいのですよ、ある意味。人口減ってくる。ただ親父、お父さん、お母さんが今から車も乗れなくなるとなったときに、もう北条で住んでいてくれと。そしたらもう病院もショッピングセンターもあるという、そういうふうな加西市の都市構想みたいな、そういうのがあるのかないのか教えてもらえますか。

#### ○会長

コンパクトシティ化の問題ですね。

#### ○事務局

そうですね。一応、大枠でと言いますか、大まかな方向性とししましたら、加西市は北条地域を中心に市街地が形成され、各市街化調整区域になっているのですが、各小学校の周辺部が9小学校区あるというふうな状況なのですが、イメージとすればその市街地の都市機能は維持させていき、その市街地内においてはコミバス等も潤沢に動き、移動が基本的には公共交通、もしくは徒歩によ

って生活ができる圏域を形成する。そして、その周辺部との関係においては、そのネットワークをできるだけ希望がかなう移動ができるようなネットワークを形成していきたいというのが大枠のイメージです。

ところが、このネットワークの部分が非常に肝要でして、現在、委員の場合は西在田ということで、はっぴーバスというコミュニティバスが地域のNPOを実施主体にやられているのですが、どこまでの形態をもってその地域とのネットワークを構成させることができるのかというところが、ポイントになってこようかと思います。ただ、イメージとすれば今申し上げたような市街地周辺部の都市機能の維持と周辺部とのネットワークによって市内全域の生活機能、生活のサービス水準を維持したいというようなところが基本的な考えです。

#### ○委員

今回のこれには北条地区のことが書いてないので、北条地区にもっとお金を入れるような方法があってもいいのかなと。

#### ○事務局

その公共的な投資をということですかね。

#### ○委員

そうですね。あの一帯である程度賄えたら、うち住むところは田舎でも大丈夫なのですが、ちょっと出ていったときに、そこ一帯で何でもできるというような方向になるような施策が入っていないのかなと思われるんです。

#### ○事務局

先ほど申し上げた北条市街地部分の都市機能の強化というところに、もう少しお金も入れてもいいのではないかとのご意見ですね。承っております。一応、現在も旧北条市街地部分ということなのでこ入れといたしますか、そこの再整備といたしますか、といったところは行政部局的には、その視点は持っておりますので、そういう意見も踏まえて、そこらあたりも推進していけるように考えてまいりたいと思います。

#### ○会長

実際具体的には、いわゆるコンパクトシティの議論とかというのが、市の内部では議論されているということでしょうか。そうではなくて、まだそこまではいっていない。というのは、コンパクトシティになると何が出てくるかということ、例えば高層化を考えなきゃいけないわけですね。そうすると都市計画区域を変えていかなきゃいけない、都市計画の指定を変えていかなきゃいけない、その議論はされてらっしゃるのですか。

#### ○事務局

現時点では、立地適正化計画自体をどうするのだということ、まだ未定なのですね。ところが他方、今の市長は歩くまちづくり条例ということで、その精神を条例化されたのですが、基本的には歩いて過ごすことができるようなまちづくり、都市機能というふうな視点からの都市機能の集約というところは、昨年来その方向性は示してございます。ただ、今、会長おっしゃられたような適正化計画に基づく計画づくりというのは、まだ今後の課題というところが現状です。

○会長

わかりました。何か補足ありますか、今先ほど何か。よろしいですか、資料。よろしいですか。ほかにご質問、ご意見ありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。お願いします。

○委員

触れられましたけども、この前BSでローカル線の北条線のが出ましたんやけどね。

○事務局

元レーシングドライバーのタレントのですか。

○委員

あれを見ていましたら、本当にショックでした。何もないいうふうにばかりで。近所の人に聞いても、もう途中でテレビ切りましたと、そういう人もおってでしたわ。だから駅前、北条鉄道いう今、れっきとした交通機関があるわけですから、あれを基点にね、今いろんな施策が列挙されていましたけども、これは今までの市の基礎体力ね、いろんなコストであるとか、これは基礎体力の段階やと思うんですね、この制度はね。

だからそれも大事ですけども、もう一步さらに進んで、交通網の整備。北条鉄道をもっと中心に住宅ができればそこに店もできるやろうしやね。いろんな開発もできる。だからあの周辺をもうちょっと考えて、今もう皆どこも田んぼの真ん中なのですね。あれをもう少し工夫されて、あのあたりから中心にずっと徐々に広げられたら、自然と観光地であったり、またいろんな住宅、店も出てくると思うんですね。そのあたりの何か、今法華口にああいうような施設ができましたけど、何か観光中心のような感じの説明なのですが、もう少し住宅とかそのあたりをもうちょっと考えてもらったら、わざわざこんな都市計画も大事ですけども、そういうことなしに今あるわけやから、あのあたりを都市計画的に何かできないんですかね。

○会長

どうでしょうか。ちょっと多分都計上の問題はいろいろあると思うんですが、先ほど例えば駅前であれば、兵庫県の場合はたしか指定地域ができたと思うのですが、活用すれば住宅地はできなくはないと思うんですが、何かいかがですか。ご意見について。

○事務局

今会長がおっしゃられたように、北条鉄道、非常に加西市にとっては幹線交通ということで、そういった側面を担うことができれば、非常に我々としても理想的な姿なんですけど、ご存じのとおりほとんど北条以外は市街化調整区域でございますので、なかなか都市化といいますか、市街化というところの形成には至ることができないっていうのが、法制上の限界の部分があるかとは思いますが、先ほど田端先生もおっしゃられたように、兵庫県の特別指定区域という制度がございますので、それを活用する中で地縁者住宅であったり、あと用途別、目的別とかというふうな特別指定区域という制度を極力広く活用することによって、住民ニーズの開発にそぐうような土地政策というものは考えていく必要があるのかなとは思いますが。できるだけ、そういった駅前も含めて幹線鉄道、幹線交通という北条鉄道がございますので、その辺りはその視点を持っておくべきだというふうに我々も考えておりますので、できる限り尽力していきたいというふうには思います。



#### ○会長

それは既存施策の中でそれは随時やっていけるということで、既存の施策の中にあるということですね。既存の政策というか、方針としてあるということでしょうか。

#### ○委員

僕も今日は、北条鉄道の取締役会に行ってきたのですが。もうどっちかという、北条鉄道は、通学の人でもっている。昔は大勢北条から外へ通っていた人、でまた電車乗って来る人が多かったのだけでも、もう殆どの売り上げの大きな部分は、小野高校とか小野工業高校とか、そういうところへ学生さんが非常に多くて、それでもっているということなので、今言われたように電車ってというのは運転しなくてもいいわけやから、その辺に住宅建てて、ほんまこの界限やったら北条でなくとも、その周辺に空いたところがあったら、もっと安い土地があったらそれですっといくとかいうのも、これからのことかもわからない。

でないと、もう都会へ通勤電車でやったら、そんなことはもう小野の電鉄見たって、どんどんどんどん減っちゃって、流れがもう少子高齢化でやっぱり近くに住むというのが増えとるから、だんだんなくなってきとるわけやから、違う使い方をやね、市の方としてもいかないともう存続がだんだんだんだん危なくなってくる。北条高校の支援して、北条高校へ皆いい人が行くようになってくると、小野高校へ行かなくなったら余計、いわゆる収益が悪くなるというような状況で、今言われたように駅前何か店をつくるとか、きょうも市長に言ったんだけど、道の駅でなしにほんまに駅前ショッピングセンターつくったらどうだろうという、いろんな方向性を変えていかないかという、それも住宅も有りやないかと思う。その辺もだからまちづくりに一回よく考えてもらって。ちよど一緒に行ってました。そんなことで、今まで意見もそうではないかなと。ちょっと考えたらいいのでないかなと。

#### ○会長

ちょっとよろしいですか。今こういうご意見ということで、今この北条鉄道活用というのは観光買い物客の拡大となっているわけですが、要するにそれだけじゃないものもあるというご意見でございます。実際には、ここでは商業施設の進出支援等、具体的な施策もありますから、先ほど言っていたご意見も含めて、実際の施策を動かすときには少し反映させていただきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。きょうは全員に話をしてほしいと思っておりますので、ご意見いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### ○委員

たくさん施策が考えられて、継続していくということで、それはいいなと思ったのですが、これからする施策と今までしてきた施策をどうやってアピールしていくかが大事なかなと思いました。今はホームページに入ったり、あと子育てNAVIでいろいろアピールされていると思うのですが、そこにアクセスしないと見られないから、子供を持っている親、園に来てる親に直接呼びかけるとか、北条鉄道の中にディスプレイ置いて、そこで何かCMみたいな感じで流して宣伝したりとかしたらいいかなって考えました。

あと、「こういうことしてます」だけじゃなくて、この施策を利用して、どういうところがよかったという利用した人の生の声を取り上げて、それも一緒にホームページに載せたりするというの

をすると実感が湧くし、利用してみたいなって思う人が増えるのではないかなと感じました。

#### ○会長

すごくいいご意見いただいたと思うんですけど、どうでしょう。例えば具体的に、もし保育料の無料化は段階的といってもやはり声が大きければこれをどんどん進めざるを得ない。もちろん調整がいろいろ大変になることは十分承知はしておりますし、先程の委員がおっしゃったように、先行者の利益というのも考えれば早くすべきだという議論もあるでしょうし、委員のおっしゃったように、利用者からすると一番アピールするようなところを狙って、しかもそれに利用したおかげでもう一人子供産むつもりになりましたっていう声がもし出れば、これは発信力って大事ですよ。相生なんかの子育てで大ちゃんを使って発信して、あれで本当増えたっていう話ですので、やっぱり発信力は大事だと思います。

#### ○事務局

おっしゃられるとおりの部分でございまして、我々としてもなかなか情報を伝えていくということが、不得意なのかよくわからないんですけども、なかなか知っていただけないという部分がございますので、我々も極力その発信に努め、今後もシティセールス、シティプロモーションっていいですか、やはり売り出していくっていうことは本当に重要なセクションだと考えておりますので、そこには注力してまいりたいと思います。

さらに言いますと、若い世代のいろんな方のお声を聞きますと、お母さん同士のネットワークであったりっていうところが広がりを見せていくツールとして非常に大きいというふうな声も聞きますので、できるだけ保護者世代であったり、お母さん世代といえますか、そういう若者のネットワークの中に市の情報が溶け込むようなことを考えていきたいし、その加西市民の皆さんにはそのあたりのご協力をお願いしたいというふうなことを思います。今後ともその辺りは積極的に進めていきたい分野と考えておりますので、ありがとうございます。

#### ○会長

委員にも関わっていただくような機会は持つとかね、先ほど要するに市役所内部で固まってしまうとだめなので、そこを進め方でちょっと懸念するのは、プロジェクトチームは市役所の職員、専門性がありますのでね。ただ、やはり先程言ったように、いろんなところで市民に関わってもらわないとできない仕事ですよ。ですから、そこをどういうふうに具体的なところでされるのかっていうのは、ちょっと考えていただいた方がいいかもしれません。これ、市役所でできる話ですので、市役所で考えなきゃいけないところですので、どうやって入っていただけるのかっていうのは、そうすることによって恐らく変わってくると。

例えば、もしシティプロモーション課をつくるのであれば、例えば机を横に置いてもらって、委員さんに座ってもらうと、どういうふうな座ってもらい方をするか、それはわかりませんが、例えばそういうふうな発想を変えてかないと、要するに雇用も含めてですね、だから。変えてかないと、恐らくうまくいきません。そういうのは多分、企業とか当たり前にやっているって言われそうですね。

#### ○委員

営業力がない。だから広報が営業やらないと。やって、増えて知らんやつが悪いのではないかいようなことでは。商品券が、昔は5%だった。そしたら5%だから売れなかった。それで広報や

なんかが出てみてもなかなか売れない。そしたら、どうしたかいうと会社の朝礼に言ってくれと、「5%は得やで」、「給料も上がらないのだから、ガソリンでも何でも使え、5%やで」と。150円のガソリンやったら7円50銭も安いわけやから。そういうように言うとやね、ずっと売れていく。それまで、売れへん、売れへんと、まあ2割だとすぐ売れた。2割だったら、すごく儲かるから。5%ぐらいやったら、そらぼんと来なかったら広報活動やらないと売れなかったという前例。

それと今北条高校の支援をやっている。あれも加西の新聞社の人に来てくれはって、5回書いて、その北条高校のあり方とかいうこともいろいろアピールしてもらわないと、お母さん、兄弟に、「あんな北条高校あかんで」と、今まであかんかったんやからっていうイメージを変えるっていうとやっぱり広報だね、その辺、市役所はもっと勉強しないとイケない、今言われたように。営業力と行動力がない。案をついたらそれで仕事終わったと思っはイケない。できていくらのことだ。

#### ○会長

応援、ありがとうございます。他いかがでしょうか。何かご意見、賜りたいと。お願いします。

#### ○副会長

何人かの方が言われていることと同じようなことなのですけども、やっぱり今このアクションプランを見せていただいて、11個でしたか。幾つか具体的な説明をしていただいたんですけども、この目標年度が平成31年、5年後ということになって、その気で見たら、5年後に、あるいはそれまでにちゃんと、書いてあるような成果が出そうなものと、「5年ではこれあかんで」という、例えば開発をして住宅をたくさんつくりましょうって言ったって、これ実際の段階で、予算をつけて何やかんやしていたら、5年ではできないでしょう。恐らく、5年では人が住むようにはなりませんわね。結局、それでは5年後に成果があるものと言えるのか。あるいは、10年後を見越したものと、5年先には住宅地をきちっとつくろうというのだったら話がわかるんですけども。

それにしたって、それは31年度に人口増なのか現状維持なのかわからないけども、そういうことのためにするものということには、ちょっと合わないような気もするし。そうなったときに、やはり今イメージの話が出ていましたけども、本当に市民の方、あるいは周りの方の加西市に対するイメージをアップするということは、まず喫緊の課題じゃないかなと、私思うんですよ。先日のテレビ見てたって、今言われてましたけど、何も無い、何も無いと言われたら、あるいは田舎、田舎と言われたら、やはりイメージはその一言、一言のたびにどんどん下がっていきますわね。確かに、今まで加西市は何もない、これは本気なのか、ちょっと謙遜してんのかもわからないけれども、そういうのはよく聞く。それから生活がしにくい。水道代が高いや何やかんやいうような、そういうようなことが非常に前面に出て、それ以上のいい部分というのがなかなか前に出てこないということがありますよね。

確かに中縦なんか使って、よそから加西に帰ってくると、インターチェンジを降りた途端に暗くなる。まだ高速の上のほうがよっぽど明るい。降りたところでいきなり暗くなって、「ああ、やっぱり田舎やな」ということを我ながら実感してしまうような、そういう部分があります。北条地区に入ると急にまた明るくなるのはいいんですけども、何か寒々しい感じがする。こうこうと明かりがついているんですけど、人はいない。だから、夜に誰も出歩かないのに、不必要に電気がいっぱいつくと。あるいは、ちょっと周辺部へ行くと夜は非常に暗い。生活に不安感を覚えるほど暗いところはたくさんある。そのいわゆるアンバランスですね。その辺のところもやはりちょっと早急に考えなあかんと違うかというふうに思うのです。

それから、イメージの分ですけども、最近市の方からいろんな広報であったり、ポスターであっ

たり、そういうようなのもたくさん配られるようになって、非常にいいことだと思うんですけど、よく見ると全部イベント絡みばかりで、市内のいろんなところに張ってあるんですけども、何月何日から何日とか、何月何日と。もうそれ済んだら全然あったって邪魔、まあ邪魔にはならんけども、役に立たないものばかりが増えるような感じです。やっぱりでも、確かにそれはみんな見ているんですよ。今おっしゃったみたいに、これを市民にもっと広めたいといったものを、やはりそういうよくわかる形で醸成していかなければ、広まらないのじゃないかなと、そんな気もするんですよ。その辺のところ、ちょっとまた考えていただいたらと思います。

#### ○会長

ありがとうございます。シティプロモーションの要するに最初にご指摘いただいた主な取り組みのシビックプライドのところへ係るご意見が二人の委員からありましたけども、まだいろんな議論受けてからでよろしいですかね。お答えいただくとすれば。

他いかがでしょうか。ほかの部分でも結構だと思うのですが、打ち出し方ということですごく大事なところをご指摘いただいているのですが、他の部分でも結構でございます。先程から余り出てない出生率の向上の部分とか、その辺りのご意見でもいただければと思うのですが、いかがでしょうか。何かありますか、その辺りについての。別にこだわりませんので、どこでも結構です。

#### ○委員

今の何もないという話で、それに対しての取り組みは、まだ特には置かれてはないのかなと思ったのですが、実際に、じゃ何もないことはないということで、じゃ何があるのかっていうのをやっぱりアピールをしていかなければいけないのかなというふうには思いました。

あと、うちの会社の中であるのが、ライフステージによってやっぱり転居するタイミングがあるのかなと思っています。今回ちょっといい話で、うちの従業員の一人、よその人と結婚して加西に住むって聞いたので、それで何で加西を選んだかという工場が近いというのと、あといい建物があったということで、取り組まれている内容の成果が出たのかなと思うんですけども。じゃその時に、子供が学校に入れるといった時のことまで考えているかという、そこはまた別の話になってくるのかなという気もしますし、最近よく言われてる介護のために仕事をやめてとかいう、そういうところも会社の方の制度としては検討しているところがあって、じゃそういうところにいざ直面したら、恐らく出ていってしまうのかなっていうところはあったり。

なので、そのいろんなイベントに対してどこをどういう、どこに力を入れるのかというところがあるのかなと思って。今ここで出ているので言うと、子育てとかそちらのほうに重点を置かれているので、恐らくそちらの方なのかなとは思いますが、実際今後、高齢化がもっと進んでいったときに、加西市内でもかなりやっぱり介護のために戻ってこられる方もいるのかなと思うので、そちらについても少し考えたほうがいいのかという気はしました。

#### ○会長

ありがとうございます。新しいご意見だと思うのですが、いかがでしょうか。要するに親の介護のために戻ってくるために介護施設なり、あるいは福祉施設などが近くにある安全・安心なところだったら戻ってきやすいんじゃないかと、そういう人口の増やし方もあるのではないかとということなんですが、いかがでしょうか。一部、高齢者、CCRCの話も出ていますよね。

#### ○事務局

一応、今回の総合戦略でも、そのCCRCの視点というものは含めては表現してるんですが、現在まずは先ほどから申し上げてるような住宅環境であったり、子育て支援であったりというふうなところからまずは着手すべきということで、今日もご提案をし、それに対するご意見を求めているところでございます。

ただ、先程言われた視点っていうのは、当然に必要な部分でございますので、大きな国の動きとしてもそういうふうな含みは持たせて表現もされているところもございますので、何もやらないという意味ではなくて、まず注力すべきところはどこかっていうところには、現在お示しはしておりませんが、その側面っていうのは今後フォローしていく部分だというふうな位置づけかなっていうふうに見ております。

#### ○会長

よろしいでしょうか。全く扱わないというわけではないのですが、とりあえず何を最優先にすべきかというところで、先ほどおっしゃっていた子育てなんかを優先してくのだというコメントでございます。ありがとうございます。何か他によろしいですか。他いかがでしょうか。

#### ○委員

私は老人会の方から来てるんですけどね、もう少し老人会を利用したような子育て支援であるとか、そういった事業の一つを考えていただきたい。来年の話になるんですけど、今、市老連ではサークル活動というのを来年から力を入れていこうかなと。サークル活動といいますのは、ゲートボールですとか遊びの方のサークルはもうありますけども、子育ての例えば看護師のもうやめられた方も老人会におられますし、学校の先生もおられますし、保育所の保育士さんもおられます。いろんな職種が全部老人会のほうにまとまってきていますので、そういうふうな人を活用して、子育て支援であるとか、あるいは介護の方のサポートをね、そういったものを考えていただけたら、案外手軽で即戦力という形で、何かお手伝いができるんじゃないかなというふうに思います。そういうような事業も来年ぐらいから考えていこうかなというふうに市老連会では思っていますので。

#### ○会長

是非とも、加西型CCRCと「加西型」とついているので、その加西型の特徴に、要するに働く、要するに貢献すると、地域に貢献する高齢者が定住する加西というようなものも考えられるんじゃないかということだと思いますので。ありがとうございます。また、その点もまたご検討の方よろしくお願いします。

ほかはいかがでしょう。何かまだご意見いただいてない方で、ご意見を賜りたいと思いますので、いかがでしょうか。

#### ○委員

加西市は3世代同居率が高くてって書いてありますでしょう。さっき委員のお話聞いてても、加西にも優秀な製造会社もたくさんあって、今初めて聞いたのですが。製造会社の現場で働いてる人って、外国の方ばかりやと思ってたんですね。製造会社も日本の人も採られるのですよね。なので、そういう優秀な会社は加西市にたくさんあるので、家族、家の中で子供を育てているときに、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、まあ大学はどっか出て行ってもいいけど、将来加西へ帰ってきてくれへんかいうことを家族の中で、御飯食べながら話したりとかして、子供に刷り込んでいくというのも、そういうことも少しずつは必要なんだと。

私が子育てしたときは、もう「あんたらどこでも学校行ったらいいで」言うて、「好きな仕事ついたらいいんやで」って大きくしてしもたから家にもいないし外で働いてるんですけど、だから私は加西市から出たこともない人間やから、子供には加西市から出て行ったらいいんやでって大きくしてしまったから帰って来ない。それをちょっと反省してるもので、今から子供育てる人たちは、家族の中で加西市のいいところ、それに会社だっていっぱいあるやんかいうことを家の中で話なんかしていきながら子育てしていったらどうですかね。

○会長

ありがとうございます。実はシビックプライドというのは、まさにそのところで、そのための施策を幾つかあると思いますけど、学校だけではなくて家庭でもということですから、例えば家庭用に配る読本をつくるとか、いろいろな点はあろうかと思しますので、先ほどシビックプライドの大きな柱の部分になりますので、この部分に生かしていただければというふうに思っている。そういうことでよろしいですかね。

他はどうでしょうか。何かありますでしょうか。

○委員

まず質問させてもらいたんですけども、この土地区画整理事業での住宅戸数、中野地区70戸、西高室地区300戸。これは一戸建ちを想定されているわけですか。

○事務局

これはそうです。

○委員

区画整理事業のところでは、賃貸の集合住宅というのは建てられないんですか。

○事務局

いや、そんなことはない。

○委員

私は小野市内の小学校の卒業なんですけど、大部小学校区に王子町があるんですね。市役所の近くなんですけども。そこは区画整理事業の賜物だと思うんですけど、しゃれたハイツが最近たくさんできました。地元新聞の北播版に「おめでた」、「おくやみ」という欄があって、そのおめでたの欄に小野市の場合、赤ちゃんの名前、住所に王子町が頻繁に出てくる。あるとき大部小学校の先生にお尋ねしたら、大部小学校区は町が10ぐらいあるのですけれども、王子町にほぼ半数ぐらい児童数がおるといいますね。本来分散していたのが王子に集中したら、全体の人口は増えるというよりブレーキかけるのが精いっぱいかと思うんですけど、しかし求心力というようなものは生まれると思うんですね。

だから、この事業である土地区画整理事業、それと1-28、賃貸共同住宅等建設促進補助金、これをうまく連動させたら若い世代が、「こういうところ住みたいな」。先ほども物件の不足というが出ましたけども、そういうしゃれたハイツが建ち並んだら、また印象も違ってくるのではないかというふうな思いがしました。それとやはりこういう人口減少社会は必然的に生産年齢人口が減ってくる。少しでも、その影響を食い止めるのはやはり働く女性の支援、それと女性の雇用創出だと

思います。だから働く女性の支援、サポート、これについては本当に重点的に手厚くすることが必要ではないかと思います。

それと、さっき委員おっしゃられた元気な高齢者の活用というのですかね、それもひいては生産年齢人口の減少による影響を少しでも食い止める、そういう効果もあるのではないかというふうに私は思います。

#### ○会長

どうもありがとうございました。ちょっと1点目のところで、これは可能かどうかも含めて、区画整理事業で先程言った別のものを入れるということですね。補助メニューを入れるっていうことは、これは可能なのでしょうか。可能ですか。そのあたり考えて、先程そのことによって増やすことはどうかかわからないけども、ただイメージが変わると。先程副会長もおっしゃったイメージが変わる。要するにある程度、最初に委員が言われたこと関わるんですけども、集中させることによって明るくしてイメージが変わってくる。人が歩くようになれば、寒々しなくなるということなので、先ほど二人の委員がおっしゃったことと、今委員がおっしゃったことと関わると思うので、ある種モデル的なものを区画整理やる時に考えていただくのは方法かもしれませんが、ちょっと実際具体的などところでご検討いただきたいというふうに思います。ありがとうございます。

他はどうでしょうか。何かまだおっしゃってない方、お願いをしたいんですが。どうでしょうか。

#### ○委員

そうですね、もう皆さん先程からおっしゃられているのと同じことになるんですけど、やっぱりアピールの面が少ないというのは。政策たくさん、本当にたくさんあり過ぎかなと思うぐらいたくさん並んでおまして、これを重点的に取り組みますよってことも伺ったんですけども、多分、今子育て中の親である私たちの世代とあと親の世代ですね、そこが多分情報を得るとしたら広報が一番初めに見るのかなと思うんです。ホームページとかも興味のある方とかは、見られるかと思うんですが、やっぱりまだまだ高齢の方でインターネットとやっぱり無縁の方もたくさんいらっしゃるかと思うんですね。私たちのお店の情報とかもよくインターネットに載ってますよと言うんですけど、いやそんなの誰も見ないよって、やっぱりチラシっていう形で目につかないと、そういうの知ってもらえないよっていうふうについていつも言ってますんで、その世代がやっぱり知って、先程おっしゃられたように家庭の中で話題にするとか、そういったことも重点なかなと思いますので、やっぱりその施策のアピールっていうのは必要かと思うんです。

このシビックプライドというのも、持ちなさいねって、言って持てるものでは決してないので、やっぱり実感として育てていくものかと思いますので、これは若い世代の方の施策も当然重要かと思うんですけども、やっぱり高齢者の方も安心して暮らしていけ、元気に暮らしていただければ、その分どの世代にも繋がることかと思しますので、何十年か先にも買い物難民が増えるっていうふうに私たちもその辺は予測してまして、お買い物に行けない人たち、だから日々の買い物が、ちょっとした買い物も車が乗れなくなって、出れなくなってくると余計大変なことになるかと思うので、そういうあらゆる世代のところを考えていく必要はあるのかなと思います。以上です。

#### ○会長

ありがとうございました。先に委員がおっしゃっていただいたこととか、二人の委員がおっしゃったこととうまく繋げていただきまして、どうも助かりました。先ほど言っていたこととおりで、このシビックプライド、具体的にどうやっていくのかは、かなり皆さんの関心事でもあります

ので、シティセールスのところに力を入れたいということでございますので、こういったご意見を参考にいただければというふうに思います。

#### ○委員

皆さんおっしゃるとおりなんですけども、僕が思うものもやっぱり、いろいろ規制が厳しいのはわかるんですけども、やっぱり北条鉄道を何とかしたいと。そしたら駅前もそうですけども、あとアピールという意味ではいろいろ書いてもうてますけども、予算があるのはわかりますけども、やるならもう大胆にといいですか、インパクトのあることをやることによって、広報も大事ですけど新聞社の方に取り上げてもらったりとか、違う形でもアピールというか、つくれるようになるのかなと。実際、網引とかあの辺の方で、僕らの金融機関まで北条鉄道に乗って来ていただいている方もいますし、大規模商業施設まで買い物に行くっていう方も結構いますんで、そういった相乗効果も出てくるのかなと思いますんで、他のシティにはできないようなことを大胆にやることによって、やっぱり加西市が目立つようなことで、ちょっと大変だと思いますけども、尽力してもらえたらなと思います。

#### ○会長

ありがとうございます。そうですね。大胆にということですね。金融の世界では、too little, too lateが一番だめだというふうに言われますから、恐らくそういったところをおっしゃってるのかもしれませんが、ありがとうございます。

#### ○委員

皆さん、もうかなりいろいろ出ていますので、同じようなことになるんですが、やはりアクションプランは先程も委員がおっしゃられたんですが、具体的にそして大胆にということ。それとイメージとかシビックプライドっていうところを先程からいろいろあって、何もないと、お客様に私も加西市ってどんなところですかと聞くと、まあ何もないとこやというようなことを、まあ謙遜されながらおっしゃられる方もおられるんですけども、やはり委員も先程おっしゃられたんですが、例えば「根日女」とか、要は何かキャッチコピーつくっておられると思うんですね。「ゆめ・花・根日女」、ちょっとすみません、違いましたっけ。

#### ○事務局

順番が違うだけで合っています。

#### ○委員

例えばそれを要はみんながわかるように、多分わかるようにするんだと思うんですが、それとこれ一番裏のページで、これすいません。私の口からちょっとなかなか言いにくいんですけど、これ『「便利な田舎」かさい』ってこれ書いてあるじゃないですか。そうすると例えば、本当にこれで行くのであれば、本当にこれを全面に出して、アクションプラン等々は具体的にですけども、やっぱりキャッチコピー的なところは緩くてもいいのかなというふうな形で思いました。

#### ○会長

ありがとうございます。具体的なシティプロモーションの方法を言っていたと思います。確かに口につく言葉はきちっと広げていくっていうのは大事で、これはしかもそれがまちを一番よ



く表すものであれば、それに勝るものはないというふうに思いますので、ちなみに銀行さんはどんなキャッチフレーズを持っていらっしゃるんですか。

○委員

地域とともに。

○委員

私どもも、そんな感じです。

○会長

なるほどね。これやっていってプライド持ってしゃべれるような言葉になればと思います。ありがとうございました。

○委員

私も同じなんですけれど、まちへの愛着、誇りっていうのはすごく大切なのかなと思っていて、数字として目に見えなくて実感としてしか感じられなくて、すごい施策として行政がするのっていうのは難しいのかなと思うんですけれど、不便だったり税金が高かったりして違う市に移ってしまうのは、誇りとか、ここに住みたいという理由がないといけないと思っていて、ここでないといけない、加西じゃないといけないっていう思いがあったら、どれだけ不便だったとしても、どれだけほかの市と比べて充実していなかったとしても住んでいかれると思うんですね。

今、市の施策として「かさいまちあそび」という政策をされておって、私もその「かさいまちあそび」でプログラムを出させてもらって開催をしたんですけど、加西市以外の参加者の方もいらっしゃるって、すごい交流人口としては増加ができてるのかなっていうのと、統計を見ても市外からの参加者もたくさんいらっしゃったので、難しいことだとは思いますが、そういう愛着とか誇りを育てていくような活動をもっと力を入れていけたらいいのかなと思います。以上です。

○会長

ありがとうございました。要は、周りが来てくれるまちなんだというように思うのが一番の誇りじゃないかということですね。実際にこれは委員に関わっていただいているからこそ実感を持ってご発言いただいたと思うんですけども、誇りとかプライドってなかなか難しいんですけども、物があるんじゃないかって、ここをみんなが見てくれる、注目されてるっていうのは大きなプライドになるかなと思いますので、そういう意味では先程おっしゃっていただいたところが、何度も出てますが、このシビックプライドつくっていくのはすごく大事な定住の一つの大きな柱になりますから、そういったところをご検討いただきたいということだと思います。

じゃすみません、最後に、お願いできますでしょうか。

○委員

私も同じような意見なんですけど、この4月で給料にかかわらず保育料が一律2万円になったんですけど、その話も3月の保育園の説明会で知った人がたくさんいて、だから4、5歳の無料化になっても、知らない人が多分たくさんいると思うので、アピールをどんどんしていかないとだめなんじゃないかなと思います。あと、4、5歳よりも3歳児までの方がおむつにしてもミルクにしてもたくさんお金がかかるので、4、5歳だけじゃなくて、早目に3歳児までも無料にして欲しいです。

#### ○会長

ありがとうございました。この子育て3法の改正によって、実は計算のいろんな違い、変化したと、これ市が悪いというよりも、実は厚生労働省がなかなか出さなかったというのがあるので、市だけが悪いのじゃないんですけども、確かにもうぎりぎりになって皆さん知ったというのは、よく私も他のところで聞きますので、おっしゃられるとおりでと思います。ですから、ちゃんとしたアピールが必要だということだと思います。それから、3歳児までが大変だということで、これについてはどうでしょうか。3歳児までの無料化ということですね。3歳児保育は今どの程度やってらっしゃるんですか。それを含めて、ちょっとすみませんが。

#### ○事務局

その3歳児のちょっと入園状況までは今はわからないんですが、概ね市内の利用者の場合は、5歳児は加西市の場合は幼稚園制度を全市的に引いておりましたので、5歳児は幼稚園、現在ならこども園であったり幼児園ということはあれども、基本的には幼稚園ですね。4歳児は年長保育というふうな形で入られるところがもう大多数です。3歳児で入ってくる方が、そのうちの何割かかっていうところの今は情報を持ちあわせていないんですが、現状はそんな入園状況かと思われま。

ただ、この制度の先ほどのアクションプランの説明の時に我々の方から申し上げたんですが、園のハードとしての受け入れ態勢、要は無料化をすることによって入園者が殺到するという引き金にもなろうかと思われまので、ハードとしての受け入れ態勢、そして保育士さんの、先生方のスタッフの受け入れ態勢、あるいは市の財政的な情勢、いろんなところが非常に密接にかかわってきますので、まずは4、5歳児という形で進めていくのが現実的な進め方かなというふうには考えております。これも今アクションプランで、その早期の実施をということで検討、議論はしてるんですが、他のやつも含めてね、これを必ずしもこのフルメニューを実施できるかどうかということも非常に不安定な要因もございますところは、ちょっとご理解いただきたいんですが、この保育料無料というところについては、現状ではそういうふうには考えております。思いとすれば、段階的に拡大するというところはあるのですが、現実的には先程のような事情からどの時期にということところは非常に現段階では明言しかねるところということところは、ちょっとご理解いただきたいと思ってます。

#### ○委員

何かもうやるようなことを聞いたよ。結構期待していいのと違うか。

#### ○会長

ただ、何を目玉にするかっていうことだと思うんですけど、もしこれが目玉であれば、先程委員がおっしゃった、too little, too lateが一番よくないです。大胆かつ大規模にという、おっしゃっているように、まず需要が読めないというね、非常に大きい、多くの場合はそういうところがあるんですけども、それは先に委員がおっしゃったように、これから女性が働く社会をつくってくためには、やっぱり保育園制度っていうのは非常に重要な制度になってきますから、このあたりのご意見っていうのは多分ある程度共通されてて、委員言われようにやるのであれば、もう少しではないかと思いますので。

#### ○委員

そうそう頑張って、頑張らないといけない。何か目玉もちょっと出してもらわないとね。

## ○会長

しかも早くやらないと先行者の利益というのもございますので、それは大変いいと思います。ありがとうございました。

他何かいかがでしょうか。大体一通り皆様からご意見を聞いたと思うのですが、まだこれだけはいり足りないとかいうことがありましたら是非とも伺いたいと思うのですが。きょうは、これ最後ですよ。皆さんにお会いするのは、最後になると思うんですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

## ○事務局

事務局から一つよろしいですか。きょうは、非常にまちの営業、広報というところの不得手な部分のご指摘をいただいて、それについては本当に何とか考えていきたいと思っております。今日、多くの皆さんのご意見としていただいた中に、加西は何もないところだというふうなイメージといいますか、そういった概念といいますか、そのあたりが現状とすれば、例えば水道料金も高いというふうなことも過去から言われてたところなのですが、現在北播の中でも安いほうから3番目というところにまで改善しております。市長就任されてから総額2割の水道料金の軽減も図られましたので、水道料金も現在はそういう状況。教育の話も出ていたんですが、今全国学力テストということで、小学生、中学生学年抜粋なんですが、全国テストをやれば加西市の小中学生の学力は、非常に県レベルよりも上におるといふような教育力も有しております。

今日委員さんもおっしゃられてたんですが、加西に住まなくてもいいよ、加西って何もないところだっていふようなことを市民の皆さんが比較的、奥手な市民の皆様が多いのか、そういうふうな控え目な表現をされる。控え目なイメージを持たれているような市民さんも多いというのも現実かと思いますが、今日もお話されてたように、非常に市内には就職口としても非常に優良な企業が多数あるというふうなところもございますので、きょうお集まりの皆様には、そんなにマイナスなイメージを持っていただくことはないところだということ逆を逆に発信する者として今後ご協力いただければ、非常に我々としてもありがたいと思います。その辺の肯定的なプラスなイメージというところを持っていただくことと、市が今後取り組むシティセールスの一翼を担っていただけるというふうなところのお願いというふうなところを最後にできたらと思います。よろしく願います。

## ○会長

どうもありがとうございました。以上で終わるんですけども、ちょっともしよければ副会長からもちょっと最後の挨拶していただけますでしょうか。

## ○副会長

市政の重点目標である5万人都市の再生というふうなことに向けての取り組みとして、この加西市地域創生戦略アクションプラン等の説明をいただいて、具体的に説明をされる中での意見交換、非常にいい意見がたくさん出てたように思います。このアクションプランも本当に徐々に実現可能な核に近づいているようですが、まあ、もう少しまた変えないといけないと思います。

事務局の話にもありましたけども、結局加西市の水道料金の問題であつたり、それから教育成果の問題であつたりというようなことも含めて、やはり加西市全体が住みやすく、元気な都市としてのイメージをつくって、あるいは盛り上げていけるような、そういうようなことを市役所だけじゃ

なしに、市民全体で積極的に取り組んでいけるような、そういう仕組みを考えていかないかのやないかというふうなことで、非常にいいご意見をたくさんいただいてありがとうございました。今後、また行政の方で手直し等考えていただいて、よりよいものにしていただきたいと思います。

これで今日の会は閉じるわけですが、ここに集まったのも何かの縁ですので、これからそういうイメージづくり等について、少しでも協力していけたらなというふうに思っておりますので、皆さんもよろしくお願ひします。

#### ○会長

ありがとうございました。じゃ一旦、事務局のほうにお返しいたします。

#### ○事務局

非常に長時間になってしまいまして、申し訳ございませんでした。本日の意見を踏まえて、我々も全力で進めてまいりたいと思います。閉会に当たりまして、当市の理事の方から挨拶を申し上げます。

### 3 閉会挨拶

#### ○加西市理事(地域創生担当)

失礼いたします。本当に3回に渡りまして活発な議論をいただきまして、ありがとうございました。

今回の地域創生戦略というものにつきましては、もう一度みんなで地域を考え直すということが、一つの目的でもあって、いろんな人たちが集まって、もう一度地域を考え直していこうじゃないかと、そういった意味で活発な議論がいただけで本当にありがとうございました。

今回の計画については、特に人口ビジョンなんかは非常にアンビシャスな計画で、非常にハードルも高いということもございますけれども、先程から出ておりました加西らしさということとか、あるいは大胆にイメージ戦略というふうなことを一つのキーワードとして、今後我々としても取り組んでいきたいなというふうに思っております。よく、行政は「つくりっ放し」っていうふうなことを言われますけれども、決してそんなことがないように、行政の「つくりっ放し」と「市民の無関心」、これが一番施策を遂行する上では非常に困りますので、そういったことを十分に認識しながら我々としても取り組んでいきたいというふうに思っております。この計画は、これで完璧なものっていうんじゃないくて、これは適宜見直しをして、毎年評価、検証して、よりよいものになるように我々としても努めていきたいと、それがひいては加西の再生に繋がっていくというふうなことで進めていきたいと思っておりますので、今後とも是非ご協力、ご支援いただいて、我々とともに同じ方向に向かって進めていきたいと考えておりますので、是非よろしくお願ひしたいと思っております。

長時間にわたるご議論、本当にありがとうございました。